

会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (3)教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第1回教職員実施委員会
開催日時	令和7年8月20日(水) 15:00~17:00
場所	オンライン
出席者	委員：泉田 優、佐藤 善邦、八木 信幸、及川 源太、石田 哲也、 藤井 貴志、岩村 聡志、足立 隆、田中 良 計9名 オブザーバー：岡村 慎一 計1名 請負業者：飯塚 正成 計1名 合計11名
議題等	<p>プロジェクト同期／ステータスアップデートの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本年度の教職員研修実施委員会はFDセミナー(2回:東西各1)とSDセミナー(2回:東西各1)の計4回を集合研修で実施し、専修学校業界の質向上に貢献する。 • 共通基盤整備事業との役割分担により、当委員会のセミナーで以下の成果物・ガイドラインの検証・普及を担う。 <ul style="list-style-type: none"> ①自己点検・評価(学校評価ガイドライン対応の評価表・運用ガイドライン) ②学校関係者評価(委員会の設置・運営・公表のガイドライン) ③中期事業計画策定(手順書の説明と演習、事例に基づくワーク) • 東会場は東京、西会場は福岡で実施(前年は岡山実績あり、今年は集客・運営利便性から福岡を選定)。 • 統括委員会がLMS活用を横串で調整。 • 对外発送は1回に集約(9月中旬想定)。FD/SD両案内を同封。 • 各回の現地運営は1会場あたり4名体制を上限に配置。 <p>共通基盤整備事業との役割分担の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全専各は本年度、外部評価機関整備の新規委託を含む3本柱を受託。外部評価の段階的義務化(来年度以降、約500校規模で開始想定)への備えとして、評価関連の知見を迅速に普及する必要。 • 研修(FD/SD)を普及の場・検証の場として活用することが合理的。

- FD: 自己点検・評価、学校関係者評価の運用ガイドラインの説明・検証(短時間演習・グループワーク含む)
- SD: 中期事業計画策定手順の説明・演習、事例に基づく実践的ワーク
- 本年度は統括委員会で要件取りまとめ・業者調整を実施。必要に応じ当委員会から要望提示。

研修コンテンツ設計(FD)

- 学校教職員(職業実践専門課程設置校を含む)で、自己点検・評価および学校関係者評価の運営責任者/担当者。
- 具体役職例を明記する方向(教務部長、学科長、校長補佐等)。挨拶文にも FD としての意義(教育の質保証と評価を担う管理職の理解)を明確化。
- 1 日目(午後): 自己点検・評価(学校評価 GL 対応)
- 文科省事業の経緯/趣旨(主催・来賓挨拶含む)
- 新ガイドライン対応の自己点検評価表解説(90 分)
- 自己評価のミニ演習(30 分)
- 運用ガイドラインの利用方法紹介
- 意見: 初日にも短時間のグループワーク/情報交換枠を設けると満足度向上(他校交流ニーズが高い)
- 2 日目(午前): 学校関係者評価
- 委員会の設置・開催・運営・結果取りまとめ/公表の運用 GL 解説
- 効用と課題のグループワーク(各校の現状共有→論点整理)
- 位置づけ議論の整理(FD か SD か):
- 教育の質保証(アセスメント/バリデーション)に直結し、学科長・教務系管理職等が理解すべき内容として FD に位置づけることに合意。
- 会計等、教員に不向きな論点は避け、教員・学科運営に関わる必須論点へフォーカスする編集方針。
- 受講定員:
- 30 名程度(グループワーク運営適正規模)

研修コンテンツ設計(SD)

- 1 日目(午後): 中期事業計画策定(5 年想定)
- 共通基盤側の「中期事業計画手順書」解説(講義中心)
- 50 分の演習(講義-講義-演習-講義の流れ)
- 5 年スパンの整合性根拠: 第三者評価(5 年周期)との PDCA 整合
- 2 日目(午前): 実践ワーク(事例/テーマ特化)
- 成功事例に限定しない「ケーススタディ」提示→グループで検討・発表(事例は可能な範囲で匿名加工)

- テーマの軸を明確化し、持ち帰りやすいアウトプットに収束
- 候補テーマ(優先度高):
- 教育の質向上(募集・定員充足との連動を含む)に関する5カ年施策
- 学科構成・分野再編、教育内容高度化、企業連携強化、評価指標設計(学習成果、就職/定着 等)
- 教職員の人材育成(内部FD/SD)の5カ年計画
- 必要能力要件、研修設計、評価/登用連動、採用・定着策
- ファシリテーション: 及川が担当
- 共通基盤の昨年度成果は全専各HPに掲載。最新手順書案の進捗・論点は共有依頼(佐藤の要望)により事前資料連携を強化。

アンケート設計・回収

- 当委員会の成果把握に加え、共通基盤側成果物(評価表/運用GL/手順書)の検証データとして活用。
- 理解度/有用性/適用可能性/難所の特定(自由記述)
- 自己点検評価の各項目の実施可能性/是正改善余地(自由記述)
- 学校関係者評価GLの実装容易性、グループワークの有用性
- 中期計画は手順の明確性、必要リソース、導入障壁 等
- Google フォーム等でIT集計。最終セッション前に「会場で入力・提出」を原則化し回収率を最大化。
- 各委員会独自設問の追加を許容(最終版は次回委員会までに確定)。

日程・会場(確定/仮)

- 東京、福岡(岡山は昨年実績ありだが本年は福岡を基本とする)
- FD 東京: 11/13(木) - 11/14(金) 想定(候補提示の中で11月中旬を合意、詳細は会場確保に合わせて確定)
- FD 福岡: 11/18(火) - 11/19(水)
- SD 東京: 12/1(月) - 12/2(火)
- SD 福岡: 12/10(水) - 12/11(木)
- 次回委員会:
- 事務局が会場予約・事前送付物の発送/受け渡し段取りを実施
- 現地窓口は各会場担当が受領・設営・返却対応

広報・募集・受付運用

- 9月中旬にFD/SD同封一括発送案内文草稿の締切目標: 8月末(9月中旬投函に必要)
- 受講対象の具体化(教務部長/学科長等)とFD/SDの位置づけを挨拶文に明記

	<ul style="list-style-type: none">• 2 日目ワークの詳細テーマは「実施のためのワークショップ(1 日目講義に連動)」の枠で記載し、詳細は追って確定可• 申込フォームは Google フォームを基本(自動返信含む)。昨年度の課題(受付不達・問い合わせフロー)を踏まえ改善。• 定員 30 名。 <p>決定事項</p> <ul style="list-style-type: none">• FD: 自己点検・評価(1 日目)+学校関係者評価(2 日目)• SD: 中期事業計画(1 日目講義+演習)+2 日目ワーク(教育の質×募集、人材育成を中心に事例検討)• 西会場は福岡。日程は、FD 福岡が 11 月 18 日~19 日、SD 福岡が 12 月 10 日~11 日、SD 東京が 12 月 1 日~2 日、FD 東京は 11 月中旬(11 月 13 日~14 日を想定)で確定して手配。• 定員 30 名。• 受付方式:Google フォーム(自動返信)での一元管理。会場でのアンケート即時回収を運用原則とする。• 次回委員会:10/9(木)13:00-15:00(東京対面+オンライン) <p>未決・フォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none">• FD 東京の最終日程と会場確定(会場空き状況反映の上でフィックス)• 文科省来賓挨拶者の確定(泉田より室長確認)• アンケート最終設問の確定(次回委員会までに Slack で意見集約)• SD 2 日目ワークの詳細テーマ・ケース資料の確定(及川・八木中心に設計、共通基盤資料の最新反映)• 受付フォーム仕様の確定(自動返信文/受付通知/問い合わせ導線、昨年課題の再発防止) <p>連絡・依頼事項</p> <ul style="list-style-type: none">• 会場予約(島構成で 30 名対応可)、資材発送/受取段取り、次回委員会(10/9)の会場・ハイブリッド環境準備• FD 案内文/報告書: 田中(東)+足立(西)で 8 月末草稿• SD 案内文: 及川・八木連携で枠組みを統一、FD と同封• 八木: FD 全体設計/資料、アンケート原案• 及川: SD 2 日目ワーク設計・ファシリ、ケース収集・論点設計• 藤井: 司会、受付フォームの運用、当日受付と自動返信設定、過去の知見を手順化して共有
配布資料	